

令和4年度（第5回）薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議 議事録

日時：令和5年3月28日（火）12:45～13:40

場所：日本薬学会第143年会 PS3 会場（北海道大学 札幌キャンパス・薬学部 2F 多目的講義室1）及び Zoom Meeting を併用したハイブリッド開催

出席者：全国大学薬学部において生化学教育に携わる教員 83 名（代理出席者 3 名含む）

欠席のため表決を議長に委任：17 名

配布資料

1. 会議次第【資料1】
2. 出席予定者名簿【資料2】
3. 新コアカリに関するアンケート調査結果【資料3】
4. 令和5年度 委員長校、副委員長校、参与校の選出
及び薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議開催日程について【資料4】
5. 生化学分野教科担当教員会議会則
及び生化学分野教科担当教員会議役員構成内規【資料5】
6. 昭和大学薬学部における科目横断的講義の例【追加資料1】

会議内容

1. 開会の辞

紺谷圏二委員長（明治薬科大学）より、開会の挨拶があった。

2. 議長の選出

会則に則り、紺谷委員長が議長に選出された。

3. 新コアカリに関するアンケート調査結果について

紺谷委員長より、新コアカリの概要説明と昨年の動向について簡単に説明があった後、以下に示すように、事前アンケート結果の紹介及びそれらに関する意見交換が行われた。

●質問1）新コアカリ（案）には、昨年5月末に行われた新コアカリ（素案）に対するアンケート調査の結果がどの程度活かされていると感じているか。

C-6 及び C-7 に関して 59 件の回答が寄せられ、「ある程度活かされている」と感じている教員が約 25~30%、「どちらともいえない」も約 25%という結果であった。

●質問2）今後の新コアカリ運用に向けた具体的な方策について。

【他領域（化学・薬理・臨床など）との繋ぎ目の教育に関して】

総合型講義や科目横断的な講義を利用するといった意見が比較的多かった。宮本昌彦准教授（新潟薬科大学）と板部洋之教授（昭和大学）から、所属機関でこれまでも行われている総合型科目に関する具体的な内容の紹介があった。また、教員間の連携を

高めていくといった意見も多く、松沢厚教授（東北大学）からは、各領域の教員で構成されるワーキンググループでのミーティングにより、領域間で重複が無いようにするなどの調整を行っている等のコメントがあった。また、石田洋一准教授（湘南医療大学）からは、臨床を意識した、疾患や治療薬を題材にした生化学の講義に関してコメントがあった。

【暗記ではなく、新たに直面する課題や問題点の解決に活かせるような学力の育成に関して】

SGD やアクティブラーニングを活用するといった意見が比較的多く寄せられた。森哲哉教授（高崎健康福祉大学）からは、既にこれまでも行われている SGD を取り入れた講義の具体的事例が紹介された。また野坂和人教授（武庫川女子大学）からも、少人数によるディスカッションを取り入れた講義等に関するコメントがあった。また演習科目や卒業研究を通じた課題解決能力の育成に関する意見等が紹介された。

【科学的探求心の育成に関して】

卒業研究や研究室での活動を通じて行うといった意見が多数寄せられた。また、薬剤開発や科学的トピックスを解説するなど興味を持たせるといった意見等が紹介された。また築地信准教授（星薬科大学）からは、実生活の事例との関連性を意識させる内容を講義に取り入れるといった工夫も紹介された。

4. 令和5年度委員長校、副委員長校、参与校の選出について

服部光治副委員長（名古屋市立大学）より、令和5年度の参与校・参与として、京都薬科大学・中山祐治教授が推薦され了承された。よって令和5年度は、委員長校・名古屋市立大学（服部光治教授）、副委員長校・星薬科大学（東伸昭教授）、参与校・京都薬科大学（中山祐治教授）に決定した。

5. 令和5年度（第6回）薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議の開催について

令和5年度委員長の服部光治副委員長より、令和5年度（第6回）薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議を日本薬学会第144年会（パシフィコ横浜）期間中に開催することが提案され、了承された（開催方法は未定）。

6. その他、閉会の辞

その他として、問題提起、意見、質問等を募ったが、とくに出席者からの発言はなく、紺谷委員長より閉会が宣言された。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、本議事録を作成する。

（記録者：参与 星薬科大学 東 伸昭）

（事務局：明治薬科大学 生化学研究室）

令和5年3月31日

議長（委員長） 明治薬科大学 紺谷 圏二